

福島県立図書館

第1節 概 要

1 はじめに

生がい教育のにない手としての役割をふまえながら、県内の資料センターをめぐり資料の整備を図り、館内一般閲覧業務のほか、利用者及び諸施設に対する参考調査、広く県民に対する移動図書館による館外奉仕、読書普及活動の推進、県内図書館等との相互協力等に重点をおいて運営してきたが本年度も引き続き下記重点目標を設定し、利用者の期待と要求にこたえるよう努力した。

(1) 図書館資料の質的充実

蔵書診断にもとづく基本図書の収集整備、未受け入れ資料の整備促進、「小野崎文庫」の整理等を行った。

(2) 調査相談機能の充実と奉仕活動の強化

参考資料の整備と館外個人貸し出しの大幅な伸長を図った。

(3) 書庫内スペースの効果的活用

書庫の狭隘を打開するために、逐次刊行物、新聞、特許公報類等の効率的保存の検討、書架の増設等を行い、また一部他に保管を依頼するなどの方途を講じたものの、大幅に増加する資料の保存の根本的解決には至らなかった。

(4) 相互協力事業の推進

資料相互貸借の充実に努め、公民館等においても積極的に実施するところができている。

(5) 移動図書館「あづま号」の効果的運用

予約制度の充実や、市町村読書施設の協力を得て大幅な利用増を見せている。

(6) 親子読書文庫の充実

セット内容の改善、配本時における参考資料の提供等により、積極的に活用されている。

(7) 読書普及活動の推進

関係諸団体との連絡協調、県図書館大会の開催等を通して、各地に気運が盛り上がってきている。

(8) 職員研修事業の強化

研修会、講習会、県外研修等、対象に応じて実施し、職員の資質の向上に資した。

2 図書館協議会

(1) 委員の任命

改選期に当たり関係団体の推せんを得て任命され、昭和52年8月10日の第1回協議会で、議長に辺見正治委員、副議長に小林忠道委員が互選された。

委員は次のとおりである。

任期 自 昭和52年6月13日

至 昭和54年6月12日

高橋 哲 夫 県立福島女子高等学校長

原 田 俊 子 二本松市連合婦人会長

山口 善 吉 河東町公民館長
辺見 正 治 福島市教育委員会教育長
猪俣 良 記 県議会議員
堀 口 知 明 福島大学教授
小林 忠 道 福島商工会議所専務理事
高山 聡 県信用保証協会専務理事
南 沢 馨 N H K 福島放送局長
浅見 高 由 郡山市少年センター所長

(2) 協議事項

第1回 (昭和52年8月10日)

- 1 図書館の組織及び運営について
- 2 52年度予算の概要について
- 3 県立図書館の現状と課題について

第2回 (昭和52年11月1日)

- 1 53年度予算について
- 2 県立図書館運営に対する意見聴取

第3回 (昭和53年2月22 23日)

- 1 県立図書館運営の基本方針について
- 2 53年度移動図書館の巡回奉仕計画について
- 3 身体障害者に対する奉仕について

第2節 整理事務

1 資料の収集

(1) 一般資料の収集

基本図書、参考図書を中心に、更に利用者の多様な資料要求に対応して、各部門の均衡を保つことに意を用い、収書委員会においてじゅうぶん検討を加えながら、その充実整備を図った。また、昭和51年度の蔵書診断の結果に基づき推せんのあった哲学・宗教部門は、購入計画を立てて優先的に収集に努め充実を図った。

(2) 郷土資料の収集

郷土関係資料は、官公庁の行政資料と民間の出版物とに大別できるが、これらの資料は、県内公共図書館の中心館の性格を考慮して、対象となる図書館資料の中でもっとも重視している。しかし、現実には収集のためのルートがしゅうぶんでないために、極めて困難な状況にある。それでも、年度当初に市町村長、市町村教育長、公民館長等に対し文書その他の方法で強く要請したことが好結果をもたらし、市町村勢要覧 広報紙、文化財調査報告書 地域開発計画書などの資料が数多く寄せられた。民間出版物は出版情報の入手が困難なため、しゅうぶんな収集には至らなかった。

(3) 資料の受贈

まとまったものとしては、月館町在住の長谷部俊一郎氏から詩集 278冊、福島市在住の詩人高橋新二氏から 904冊